



在京古高同窓会会報 第35号

〒113-0034 東京都文京区湯島3-20-9-707 佐藤清勝税理士事務所内 在京古高同窓会事務局

TEL (03) 5818-2673 FAX (03) 5818-267 URL http://www.1.ttcn.ne.jp/~fu Email zaikyo-furuko@mx5.ttcn.ne.jp 発行責任: 曾根 研一 編集長: 亀井 明 印刷: (株)ケーヨー

一在京同窓会メモ一 会計年度は4-3月、年会費は一口2,000円です。会の健全運営のため、振替用紙が同封された方には、納入をお願い致します。次回会報第36号は2006年1月1日発行

魅力ある同窓会づくりを

一つの夢に託して

会長 三浦 澄能



先日、「二〇〇年後の未来技術の展望」と題した、ある民間グループの調査報告を聞きました。環境・資源・エネルギーの諸問題を克服する対応、生命科学や超長寿社会を支える脳やロボットの進化、未来の世界情勢と家庭生活がどう変わるのか、現在の六十三億人から一〇〇年後一〇億人に達した人類は天国と地獄のいずれに在ることやら、等々・・・技術革新テンポから達成可能な且つ明るい未来指向を前提に予測したというものです。誠に興味の尽きない予言内容でした。課題の大きさとそれを乗り越える技術革新に、私は驚異の溜息をつきながら子々孫々の時代をあれこれ思い巡らす中に、わが同窓会の先行きのことも頭に浮かんだりしております。既に一〇〇年を超える歴史を持

つわが母校も今年から男女共学校として、未来に向かって新しい息吹が始まったわけですね。やがて共学卒業生が次々と社会に出ていろんな場で活躍することでしょう。先輩として温かく見守って行きたいものです。

さて、機会ある毎に申し上げて参りましたが、役員会では「会員の増強」を主眼に一同で努力して参りました。会費納入会員数が一時は三〇〇人を切る状況でしたが、皆さんのご協力により最近はどうにか三五〇人前後で推移しております。今年の四校合同新年会では古高OBの出席が五年ぶりに一〇〇人を超える盛況となりました。大変に嬉しく存しておる次第です。それでも、首都圏に優に二十人はいない卒業生の数からみて、まだまだ会員の拡大に努めなければならぬと思います。

そこで、若い世代にとつても魅力のある同窓会づくりを進めるためには、会員同士が総会や四校会合のときだけでなく、ふだんから気軽に顔を合わせやすい環境をつくるのが大事であると考えております。私たちの夢は、誰でも気が向いたらいつでも立ち寄れるような、同窓会専用の集會室を持つことです。現在は役員会や会報の発送作業を行うときに、某大学の同窓

会館(室)を借用しております。

もし自分たちの同窓会専用の一室を持てれば、役員の会合だけでなく、会員の誰でも自由に顔を出して歓談したり、同期会の打ち合わせの場所に使ったりもできます。同好の集いポスターや連絡メモを貼る共用の掲示板も設置できるし、そこへ行けば母校や郷里のニュースを知ることができるとか、また遠地から上京の人たちにも利用してもらえらるなど、「拠点」としていろいろ活用されるようになれば、会員の皆が同窓会にもっと親しみを持つようになり、時には仕事につながるチャンスを得る場にもなつて、会員の交流はきつと深まることになるでしょう。引いては「同窓の絆」が強まり、会員の増加に繋がるに違いないと夢見ているのですが如何でしょうか。

そうはいっても、今の会員数のままでは一室借用するだけの財政的余裕がありませんから、いまはただの「夢」に過ぎません。このギャップをどう解決するかが課題であるわけです。

私自身は会長任期(四年制)をあと一年残すのみとなりましたが、皆さんの熱意と協力のおかげで、ひよつとするとすばらしいアイデアと吉報が舞い込んでくるのではと、反響を期待している今日この頃でもあります。

新生共学校の 船出

古川高等学校校長

鈴木 克之



春遅い陸奥に新緑が眩しく萌える向暑の候、在京同窓会の皆様には、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃の母校への温かいご支援・ご鞭撻に対し、心から感謝申し上げます。

去る三月一日の卒業式では、三名の卒業生に東京賞雪賞を賜り、改めて厚く御礼申し上げます。母校は、創立百九十年目に当たる平成十七年四月七日、新制高校第六十回入学式を挙行し、男子百五十名、女子九十名、計二百四十名が入学しました。推薦入試一、八五倍、一般入試一、二六倍の難関を突破した新入生は、これまで以上に前向きでしっかりした生徒諸君です。共学第一期生として、学校生活全般によく努力し、学習・部活動共に素晴らしい活躍をしてくれるものと期待しています。

学校では、四月いっぱい恒例の応援練習が行われ、女子生徒も「あ、猛者の眼につゆ宿る」と大声で歌っていました。男子校から共学校へ、今後各種行事におい

て共学化対応を余儀なくされますが、古高の硬派・バンカラの伝統を新しい共学校にしっかりと受け継いでいきたいと思っております。

四月二十八日開催の古高・築高共学化初年度定期戦は、女子綱引きを加えた十二種目で古高の九勝三敗、四年連続・通算三十二勝十一敗三分で決し、敵地築館高で凱歌を声高らかに歌いました。野球も、春季大崎地区リーグ戦Aブロックで四戦全勝し、県大会出場を決めました。今は、五月の地区総体を終え、六月の県総体に向けて各部の練習に熱が入っています。

今春の大学入試では、北大二・東北大九、旧帝大十一名、国立大現役五十二名、現浪計六十八名が合格し三年連続の増となるなど、文武の双方において生徒は非常に頑張っています。

本年度は、県指定事業「みやぎ高校いきいき夢プラン事業」の最終年度、「進学指導充実支援事業」の二年目を迎えます。ここ数年、学校全体の取り組みが功を奏し、学力面での確かな回復基調が見られます。しかし、未だ十分とはいえません。改革の真価が問われるのは、むしろこれからです。教職員の力を合わせ、質実剛健・文武両道の伝統精神を堅持しつつ、古高の完全復活の日まで強い決意・覚悟で教育指導に当たります。

今後とも、皆様方のご指導を仰ぎながら、母校の更なる発展を目指し全力を尽くします。何卒、これまで同様、変わらぬご支援・ご協力をお願い申し上げます。

母校の今

古高同窓会の近況



古高同窓会会長
野村 喜太郎

会員の皆様には益々ご健勝のことと存じお慶び申し上げます。

三月一日の男子高校として最後の卒業式には、曾根副会長さんがご出席下さいまして東京蜜雪賞を授与され、卒業生に励ましとお祝いの言葉を賜りましたこと厚く御礼申し上げます。大学進学に関しては、学校並びに生徒の努力の姿が窺われますが、更なる上昇にはもう少し年数が必要と思われます。

四月共学となり、男子一五〇名、女子九〇名入学し、お互い切磋琢磨し、文武共に成績向上につながればと強く望んで居る次第です。鈴木克之校長先生の「大崎一円から最高の知性が集う、進取の気性に溢れた進学校を」のスローガンの下、教職員一致して、県立の普通高校として最大の努力をして居りますので、今後に期待する処大であります。

同窓生の慶事として、春の叙勲で大崎地区では元古川市長の千坂侃雄氏（中四十三回卒）が旭日双光章を、加美町佐々木忠夫氏（中四十五回卒）が瑞宝双光章を各々受章されました。ご両名の長年のご功績に対し、同窓生皆様と共に敬意と祝意を表します。

四月二十九日に病軀の江村功氏（高十九卒）率いる東京ジャズギルドオーケストラの特別公演が古川市民会館にて開催、一〇〇人超の大ステージのリーダーとして二時間の熱演、ジャズの醍醐味と感動を与えてくれ、終了しても万雷

の拍手は止まず、江村氏と恩師、古高同窓生、故郷が一体となった感動の公演でありました。丁度清原が五〇〇号ホームラン達成の夜、忘れられぬ四月二十九日でした。

私が在京古高同窓会に出席し、頂戴した会報「蜜雪」は第二号から大事に保存してあります。当時、青柳勲事務局長さんは会社経営の傍ら事務局の仕事を手取り引き受けられ、熱心に会の活動を支えてこられました。平成二年五月二十二日ついに帰らぬ人となりました。私が初めて総会に出席した折、青柳さんの奥様も喪の中ご出席されて居り、お会い致しました。後任事務局長の片平司朗氏は事務局を北小岩の会社内に移し、日夜同窓会の発展に心を砕かれましたが急逝、元会長半田実顧問、伊藤宗一郎元会長、高橋淳夫前会長、多藤前副会長さん方も今は亡く、振り返ってみますと草創期を経て、先輩後輩の心づくしで在京古高同窓会の基礎が築かれて今日に至っていると推察して居ります。在京古高同窓会の益々のご発展と会員様のご健勝をお祈りし挨拶と致します。

本部同窓会事務局だより



事務局長 清野 千秋

平成十七年度四月をもって新生古川高校がスタートいたしました。

百八年の歴史の重みを感じつつ、更なる発展を期して教職員、生徒一丸となり取り組んでおります。本年度は入学定員二百四十名中、女子は九十名の在籍となりました。特に違和感もなく新学期を向かえております。定期戦まで新人生は中学校の制服で登校する習慣ですが、この時期も過ぎ全員が私服となりました。時折聞こえる階下の女子の嬌声に共学化を実感します。

最近同窓教職員の数が減少していましたが本年度は十名と二桁となりました。昨今の情勢で、同窓会と高校の関係もなにより業務委託契約などというものを締結するなどいろいろな面で官庁的になっております。私見ですが教育現場も効率主義、成果実績主義が流行で、ゆとりやあそびが少なくなっているように感じます。それでも古川高校はまだ文武両道の校風にそって生徒はのびのびと生活しております。

恒例の対築館高校定期戦は晴天の中開催され、十二種目中九勝して四年連続勝利しました。両校の前校長の寄付による新優勝カップを古川に持ち帰ることができました。ご存知のように築館は築女との合併で築館高校となりました。両校にとって新しいスタートとなる年度で勝利した意義は深いものがあります。卒業生の進路状況は別表のとおりです。国立現役進学

者は大幅に実績を伸ばした前年度より更に六名増の五十二名となりました。東北大は九名合格で、二桁ももうすぐです。五十名台にのるのは三十四年ぶりでありまして、今後大いに期待できる状況です。入学した女子も成績優秀で三年後がまた楽しみであります。

同窓会の活動は各支部の皆様にも助けられながら例年通り運営されておりますが、総会・新年会の参加者が少々減少したことは、広報活動の不足と反省しております。

今年度は、本部役員の改選時期となります。会長はじめ全ての役員が対象となります。五月の役員会を経て、八月総会で正式に承認されます。本校では生徒向けの講演会や、同窓会総会の記念講演と、いろいろ企画されており、適切な同窓生の方をご紹介します。人材バンクのように登録して、適切な機会にご依頼できればと思っております。

| | |
|------|-----|
| 専門学校 | 15人 |
| 就職 | |
| 公務員 | 3人 |
| 民間、他 | 1人 |

| | |
|--------|-------|
| 公立大学 | 人数 |
| 立教大学 | 4 (4) |
| 公立中央大学 | 1 (1) |
| 公立東洋大学 | 3 (3) |
| 公立国際大学 | 2 (2) |
| 公立経済大学 | 1 (1) |
| 公立経済大学 | 2 (2) |
| 公立経済大学 | 1 (1) |
| 合計 | 16 14 |

| | |
|-------|-----------|
| 私立大学 | 人数 |
| 大東学院 | 2 (1) |
| 駒澤大学 | 2 (1) |
| 早稲田大学 | 1 (1) |
| 他29大学 | |
| 合計 | 339 (272) |

| | |
|------|---------|
| 国立大学 | 人数 |
| 筑波大学 | 11 (10) |
| 筑波大学 | 1 (1) |
| 筑波大学 | 1 (1) |
| 筑波大学 | 2 (2) |
| 筑波大学 | 1 (1) |
| 筑波大学 | 1 (1) |
| 合計 | 52 38 |

| | |
|------|-------|
| 私立大学 | 人数 |
| 東海大学 | 5 (3) |
| 東海大学 | 5 (2) |
| 東海大学 | 5 (3) |
| 東海大学 | 4 (4) |
| 東海大学 | 4 (4) |
| 東海大学 | 4 (4) |
| 東海大学 | 4 (3) |
| 東海大学 | 4 (2) |
| 東海大学 | 4 (3) |
| 東海大学 | 4 (1) |
| 東海大学 | 3 (3) |
| 東海大学 | 3 (1) |

| | |
|------|-------|
| 私立大学 | 人数 |
| 大東学院 | 3 (2) |
| 大東学院 | 3 (3) |
| 大東学院 | 2 (1) |
| 大東学院 | 2 (1) |
| 大東学院 | 2 (1) |
| 大東学院 | 2 (2) |
| 大東学院 | 2 (1) |

平成16年度 進路状況

| | |
|------|-------|
| 国立大学 | 人数 |
| 筑波大学 | 2 |
| 筑波大学 | 2 |
| 筑波大学 | 1 (1) |
| 筑波大学 | 1 (1) |
| 筑波大学 | 7 (5) |
| 筑波大学 | 9 (7) |
| 筑波大学 | 4 (3) |
| 筑波大学 | 2 (1) |
| 筑波大学 | 6 (5) |

| | |
|------|-----------|
| 私立大学 | 人数 |
| 東海大学 | 17 (17) |
| 東海大学 | 135 (122) |
| 東海大学 | 25 (25) |
| 東海大学 | 1 (1) |
| 東海大学 | 4 (2) |
| 東海大学 | 3 (3) |
| 東海大学 | 4 (3) |
| 東海大学 | 2 (2) |
| 東海大学 | 11 (8) |
| 東海大学 | 10 (7) |
| 東海大学 | 5 (4) |
| 東海大学 | 5 |

過卒者数は判明した分、私立は延べ人数です

東京堂雪賞

男子校最後の卒業式

三月一日、男子校最後となる第五十七回卒業式に、東京堂雪賞授与のため出席してまいりました。

東京堂雪賞受賞者は、沼津彰克（小牛田中出身・生徒会長）・三浦智昭（古川中出身・応援団長）・佐藤正輝（三本木中出身・陸上競技）の三君で、うち二君から手記を頂戴し、以下に掲載いたしました。

私は卒業生に在京同窓会の現況の他、自身の経験から「進路先でのクラブ活動の勧めと、ネット・メール全盛のこの時代において、画面だけではなく、人との対面・対話が大切」というような趣旨を述べました。

感激性のある厳肅な卒業式を経験している私達にとって、現代っ子のパフォーマンスに、素直な気持ちで直視することはできませんが、これも時代の流れとして理解しなければならぬものではないでしょうか。

不屈不撓



東京堂雪賞受賞者と曾根副会長

男女共学化初の入式

四月七日には共学校初となる入式にも臨席いたしました。

入学者二四〇名中女子が九〇名、学校創立一〇九年目にして新しい幕開けとなり、一カ月余の間に、貴重な歴史の転換点を体験したことになりました。

この春、黎明高校（旧女子高）に入学した男子生徒に比べ、女子の積極的な古高志望が見られたようですが、受験倍率の高かった黎明中学一期生が大学受験を迎える六年後がどうなるのか、進学志向の流れが注目されます。

隣接する県北の両伝統別学校がそれぞれ共学化され、小・中学生の進路選択の幅が広がったことにもなりました。

（曾根）



女子生徒1期生を迎えた新生古高入学式

東京堂雪賞を受賞して

佐藤 正輝

この度は、このような賞を頂き誠にありがとうございます。今まで自分のやってきたことが評価され、賞を頂けることは本当に嬉しいことです。

私は三年間、陸上競技部に所属していました。種目は砲丸投げと円盤投げです。

陸上競技部には私と同じ種目をする人は一人もいませんでした。顧問の先生は昔はハードルの選手だったので、投擲の指導経験は少くのはとても大変でした。それでも朝早くからの自主練習にも手伝いに来てくださいました。本当に感謝しています。

私がインターハイで入賞できたのは、二年生の時の東北大会での経験があったからだと思います。そのときに私の中にあるインターハイへの意識が大きく変わりました。

その大会で六位以内で入賞すればインターハイ出場が決定するのですが、私は砲丸投げ・円盤投げに七位と落ちてしまいました。しかも六位との差はどちらの種目もたったの二センチです。本当に悔しくて試合の後私は泣いてしまいました。それから、じぶんがどんな思いで大会に出ているか考えてみたら、「どうせインターハイに出ても入賞できないだろうし」という思いが自分の中にありました。多分それが六位との差なんだと思います。それから自分の中には、「最低でもインターハイ入賞」という気持ちに変わっていました。それからというもの、練習でだらけてしまっても、その目標が

ある。こそを持ち直すこともできませんでした。よくある話ですが、こういう気持ちが大切なんだと思います。

確かに部活動の盛んな高校に入学していれば自分の記録はもつと伸びていたかもしれません。ただ、そこでの練習は決められた練習なんだと思います。ただ練習するだけでも記録は伸びません。自らが考えて練習することが大切なのだと思います。

自分で考えながらの練習は大変でしたが、だからこそ身に付くものも多かったのではないかと思います。私は大学（注：岩手大学）でも陸上競技を続けます。やるからには全国でトップを狙いたいと思います。インターハイで入賞できたのだから、大学でも入賞できないはずはありません。これからも新しい目標を達成できるように努力していきたいと思えます。そして、今年も古高生から全国大会で活躍するような選手が現れることを期待しています。

東京堂雪賞を受賞して

三浦 智昭

押忍！

この一年間、古川高校の応援団長として貢献してきたが、不安が多かった。不安と緊張がある中で新入生に対する校歌の指導から始まった。歴代の団長の写真が飾られている団室で、私は毎日挨拶を交わした。心の中でエールの交換を、新入生の練習が終わるまで毎日行った。気合を入れ、練習は挨拶から始まり、挨拶で終わった。

新入生には男子校としての最期をだらけたまま終わらせたくはないので、厳しすぎたかもしれないが、頑張ってくれたことに感謝をし

ていた。

築館高校との定期戦、野球、新入生の合格発表など様々な行事に参加したが、どれも気を抜けるものではなかった。張りつめる緊張感の中、私の力でこまめではやってこれなかった。旗手、幹部の者、そして先生方のおかげでこまめではやってこれた自分がいる。

卒業式を迎え、そのような思い出が頭の中を過ぎるなか、東京堂雪賞を受賞でき嬉しかった。一生の宝物となり、思い出と共に心の中に残る者となった。

「一人は皆のために、皆は一人のために」卒業式の時に言った言葉です。このような社会の中、男女共学となるが、協力し合い古川高校をより良いものにしていくって欲しい。古川高校はこれからも歴史と伝統を守り、日本全国にその名を拡げていくって欲しいと思えます。

もう一年間古川高校で勉強や部活動に励みたかったと、名残惜しいものもあります。大学（注：青森県立保健大学）で新たな人生を歩んでいく上でも、古川高校のことは決して忘れないものとなりました。

大学生生活には楽しみもあるが、不安もあります。これからは自分の力を信じ、将来に向けて一歩ずつ前進していくので、古川高校で学んだことを活かして、社会に貢献していきたいと思えます。継続を心がけ、小さいことが連なって夢というのが実現する。常日頃やっているか、やっていないか。それが大きな問題となっていく。勉学はもちろんの事、大学で学ぶことを大切にして継続していくよう頑張っていきます。最後に挨拶で終わりたいと思えます。押忍！

古川市内四校合同新年会報告

第十二回

古川市内四校新年の集い開催

各校校名変更・学制改革で
新時代を強力アピール

今年十二回目を迎える古川市内四校新年の集いは、一月二十九日（土）十一時、いつもの上野精養軒で開催されました。最近、都内の会場が不足とかで日曜日を予定していたのが土曜日、しかも三十分くり上げとなりましたが予想外の出席者となり、幹事一同心から感謝申し上げる次第であります。

平成六年の第一回から十二回目を迎えた今年は、各校とも大きな変革がありました。まず、古川商業が昨年四月から校名を「古川学園」と改名し普通課程主体の高校になりました。次いで古川女子高が、中学・高校一貫カリキュラムを併設した男女共学校となり校名も「古川黎明」となりました。そして我が母校も今年四月から女子を受け入れて男女共学制の高校になりました。

こういった事情のもと同窓会としても、これを受け入れてゆくことは当然ですが、母校は確実に変わっているという現実を認識してそれに合った対応が必要であるということを感じました。



鈴木校長

第一部は、幹事校の古川学園・佐藤八雄関東支部長の挨拶で始まりましたが、これに引続いた各校長、本部同窓会長の近況報告では、こういった変革に伴う事情説明のほか決意表明や将来展望に及ぶ熱烈な気合がこもり、今迄と違った盛り上がりとなりました。

次に出席者数であります。古高についてみますと以上のような母校の変化を察知したのかどうか判りませんが、来賓五名、会員九十七名合計一〇二名という最近としては、最高の数となりました。六月の総会が六十名台を低迷している事情を勘案し、一工夫必要であることを痛感してしております。

今年の特色は、第一部の幹事校企画のアトラクションにプロを招いたこととあります。今迄は、経費上の問題もあって自前の演出でやって来ましたが、古川学園は、三遊亭円輔師匠を招いて三十分間の古典落語「火焰太鼓」を入れました。内容については、有名な古典落語ですから聴かせる値打ちは十分であったと思えます。たまには、こういう肩のこらないものも会費（予算）のなかでやればいいのかという感じでありました。

次に第二部の懇親会は、四校共通の年次別テーブルであります。ここがまた懐古談や近況報告の場となり最も同窓会らしい場であります。特に二十八年卒以降の人達は、中学からの顔であり学校の枠がとれて親睦の深まる場であるようです。

第二部に入って最も注目をひいて、皆さんが感動したのは、旧古中大正十五年卒の師勝夫さん（九十七歳）がお元気に出席されたことです。師さんは第九回から、続いている御出席



本部・在仙・関西各同窓会役員



師 勝夫さん

すようお願い申し上げます。
おわりにあたり御多忙のなか御出席いただきました伊藤信太郎代議士、古川市助役橋本正敏様、台東区長代理岩崎政行様、東京古川会会長伊藤長市様に心から厚く御礼申し上げます。

であります。その時と全く変らな
いお元氣そのもので、現在も仕事も
やり俳句の選者もやっておられるそ
うで、明治四十年生れの気骨をいか
んなく発揮されておられました。こ
れからもますますお元氣にこの会の
貴重な活性源として御出席下さいま

第12回四校合同新年会 古高出席者名簿

〔来賓〕 (5名)

- 鈴木 克之 (学校長)
- 野村喜太郎 (同窓会長 S18)
- 公平 有史 (在仙副会長 S25)
- 佐藤 正幸 (関西蛭雪会会長 S39)
- 清野 千秋 (同窓会事務局長 S43)

〔会員〕 (97名)

- | | | | | | |
|--------------|-----------|-----------|-----------|------------|------------|
| 大15 師 勝夫 | 昭26 遠藤 惇 | 昭29 佐藤 郁郎 | 昭30 佐藤 久 | 昭35 岩崎 光任 | 昭40 佐藤 美輝 |
| 昭18 大家 吉夫 | 佐々木 国利 | 佐藤 茂 | 菅原 利吉 | 佐々木 武磨 | 昭41 小野寺 芳明 |
| 加藤 茂 | 鈴木 桂吾 | 佐藤 廣 | 菅根 研一 | 高橋 詔二 | 昭42 小野寺 芳明 |
| 豊嶋 三 | 平 博明 | 高橋 清亮 | 高橋 幸雄 | 我妻 一美 | 高橋 秀清 |
| 渡辺 三男 | 角田 啓輔 | 高橋 洵 | 二階堂 武 | 菅野 俊次 | 昭43 高安部 仁哉 |
| 昭20 安部 善次郎 | 中澤 令是 | 長浦 稠 | 平野 哲夫 | 児玉 隆行 | 昭44 三浦 正二 |
| (44回) 前田 浩五郎 | 谷地 森 税 | 早坂 清吉 | 三浦 武 | 齊藤 武俊 | 昭45 石川 進彦 |
| 昭20 荒木 和郎 | 昭27 氏家 明朗 | 福富 啓祐 | 横山 武 | 穴戸 俊 | 昭46 小嶋 雅彦 |
| (45回) 熊谷 虎夫 | 太田 徹 | 昭30 相原 相 | 渡辺 吉郎 | 千葉 昇 | 昭47 野田 雅彦 |
| 森谷 侑一 | 佐藤 清勝 | 岩城 光将 | 生亀 功雄 | 長井 清敬 | 昭48 早坂 時忠 |
| 横山 榮治 | 齊藤 林 寿郎 | 尾崎 光彦 | 昭31 萩沢 法雄 | 枘澤 仁也 | 昭49 高橋 悦利 |
| 昭22 松本 慶蔵 | 春田 紘輔 | 門脇 喜代志 | 昭32 片谷 捷伍 | 田口 正泰 | 昭50 高橋 悦利 |
| 昭24 三浦 澄能 | 昭28 熱海 勇 | 門脇 敏明 | 昭33 野田 利美 | 昭37 田口 中鉢 | 昭51 高橋 悦利 |
| 昭25 荒井 隆 | 小元 広悦 | 岸 康男 | 昭34 大友 正行 | 昭38 佐々木 恭次 | 昭52 高橋 悦利 |
| 伊藤 隆俊 | 中川 裕雄 | 佐々木 英三 | 昭35 佐藤 厚 | 昭40 浅野 仁也 | 昭53 高橋 悦利 |
| 工藤 英三郎 | 早坂 明久 | 佐藤 忠良 | 昭36 佐藤 厚 | 昭41 浅野 仁也 | 昭54 高橋 悦利 |
| 鈴木 一郎 | 昭29 金原 章 | 佐藤 寿 | 昭37 佐藤 厚 | 昭42 浅野 仁也 | 昭55 高橋 悦利 |

会員による自由投稿

日本刀に魅入られて

非常勤活動法人 日本刀剣保存会 理事長
34年卒 宮野貞司(旧姓 武田)



私が日本刀を好きになった動機は、自分が生まれ育った中新田町(現・加美町)の生家の環境と大いに関係があったと思われる。

小学生二年の頃、家の押し入れの中に二つに折られた脇指がまだ光ったままで放り込んであったのを見付けて、それを手に取って見た時、とても人の手になったものとは思われぬ神業的な日本刀の研磨技術に驚嘆し、鏡のように自分の顔が映っていた清澄な鉄の深い色に魅了されたものであった。それに、祖父の代には「長曾祢虎徹」という名刀があったという話を父から聞かされたりして、まだ見ぬ日本一の名刀に想いを馳せたことを今でも憶えている。

開けて見たくなる癖がある。と思うが、その中にそれらを見つけた時は、幼な心にも非常に興味を感じたものであった。また、倉庫の中には色々な鉄製の工具が置いてあり、使い込まれて手摺れで黒々と錆びている状態は、今になって考えると鉄鐺の黒錆に通じるものがあった。鐺の中で鉄鐺が最初にしかも素直に好きになれたのも、この子供時分の記憶に大いに関係があったと思われてならない。

さて、三十歳間近で東京の宮野家の養子に入ってから、日本刀の鑑定と研究に時間的にも機会的にも益々打ち込めるようになって、以来三十有余年なる。これからも、日本民族が世界に誇れる鉄の工芸品である日本刀の鑑賞、鑑定、保存に一層努めていきたいと考えている。

なお、刀剣の審査会は毎月一回開催、鑑賞会も毎月一回開催、当会の機関誌「刀剣と歴史」は隔月発行。詳細は左記の所にお問い合わせ下さい。

〒四二・〇〇五三
東京都品川区中延三ー三三ー一十七
宮野 貞司
電話 (〇三)三七八一ー五三三六
FAX 右に同じ

古高福の会 同期会報告
29年卒 佐藤 廣

我々29年卒の同期会は「古高福の会」と称し、暫くぶりで会合をもったのでした。

開催に先立ち、アンケートを採ったところ、本人の病気や家族の看病などがあり、日帰りの出来る処との希望が多かった。丁度年代的にも「古稀」という身体の転換期にも当っており、調子の悪い人

が多いのではないかと云えます。従って、ゆつくりと湯にでも浸かり寛げる場所はないものかと探したところ、お台場に東京の新名所として「大江戸温泉物語」ができたことを知り選ぶ事にした。

先ず門前仲町から無料シャトルバスが出ています事もあり、富岡八幡宮に集合、古稀の我々の健康を祈願し、お参りをした後、バスで大江戸温泉物語に到着した。

先ずお湯に入り寛いだあと、南部屋銀兵衛で宴会となった。中新田出身の中島さんから、中勇酒造の「夢幻」を寄贈して戴き、また湯本さんからは全員に、手造りのお猪口を配って頂きました。

一人ひとり、思い出や近況などを話して、昔に還ったような雰囲気であらゆる話をしながら、楽しいひとときを過ごすことが出来ました。来年もまた、此処でやろうと言う話になり、もう一度風呂に入る人などもあり、三々五々解散しました。



古高福の会

HUMAN USER COMPANY

HUSER

住まい選びはヒューザーへ

「スカイプラット31」オープン!
110㎡マンション展望ギャラリー

東京駅徒歩1分の夢展望台

SKY PLAT 31

東京駅八重洲南口31階に誕生!

OPEN 10:00 CLOSE 22:00

フリードリンクサービス・ネット検索コーナー

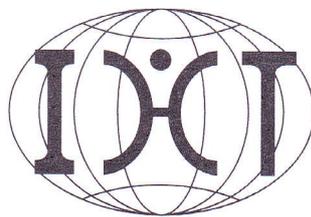
株式会社ヒューザー 代表取締役 小嶋 進 (古高47年卒)

〒100-6231 東京都千代田区丸の内1丁目11番1号

パシフィックセンチュリープレイス丸の内31階

☎03-3284-0123 FAX 03-3284-0120

URL http://www.huser.co.jp E-mail: info@huser.co.jp



30年のキャリアと世界のネットワークを駆使し、個人の旅行、グループ研修、修学旅行のお手伝いをさせていただきます。～同郷の皆様、ぜひお気軽にご相談ください～

(株)インターナショナルヒューマン トラベル

代表取締役社長 中鉢 泰平/鳴子出身・S37卒

〒164-0001 東京都中野区中野2-29-15-204

TEL・FAX 03-5385-3693

お茶の水界隈に遊ぶ
15名参加 第5回ぎやろつぱ会
24年卒 門脇 健

在京ぎやろつぱ会の第五回会合は4月6日、桜花と新芽のもと好天にも恵まれ、15名の参加をえて楽しく行われました。

午前11時、JRお茶の水駅明大側改札口に集合し、①エキゾチックなロシア正教会のニコライ堂を見て、②湯島聖堂で孔子像を拝し、③神田明神で江戸市民と祭りに思いをはせ、④東京都水道歴史館で江戸上水と近代水道を学び、⑤眼下の神田川(旧仙台東)で往古を偲びつつ歩き、少々、くたびれてノドも渴いた頃——12時15分、新お茶の水ビル21階の「銀座アスターお茶の水賓館」にて中国名菜を味わいながら、いつもの、ざつぱらんな懇親、懇談と相なった次第。開会宣言、校歌合唱、乾杯：：に続くユニークな10分間スピーチは「霞ヶ浦で8kgの大鯉を釣る」(伊藤敦さん)、「私の特殊銅物語」(大金昭夫さん)、「やっ」と大崎市“ができること”に「渋谷喜光さん」、「現代処世・養生訓?」(斎藤馨さん)などでしたが、活発な質疑応答“も加わり、時間のたつことの早いこと。フィナーレは古高応援歌「北にうそぶく大崎の...」(一般応援歌)と「船形おろしの雪消えて...」(関南歌)、「それに「故郷」の合唱。最後に記念写真撮影を行い、午後3時、また逢う日までを約し

て解散。
なお、会合は年2回を原則とし、散策・懇親会方式を可とし、世話人には引続き三浦澄能、菅昇、門脇健が当たることになりました。



“さんざほんざ”の第五回ぎやろつぱ会

蛭雪15会

還暦記念大会報告

38年卒 佐々木恭次

去る平成16年11月27日午後3時、仙台市内のパレス宮城野において昭和38年卒業生の還暦記念大会を行いました。

昭和38年卒業の同期会を「蛭雪15会」と名付けております。今回の還暦記念大会には卒業生293名の内51名の、加を得

ました。また物故同期生は18名になり、会開催に先立ってかれらに黙祷を捧げて冥福を祈り、翻って我々の今後の健康のため御被いを受けました。連絡の取れない同期生も76名に及んできました。

会は、鈴木碩武君の司会により、最初に校歌「心の琴も絃も張る。春は万葉の花の雲...」を何年振りか(前回5年前古川で、またそれ以上の同期生も居った事でしょう)斉唱しました。

在仙の今野芳郎会長の挨拶から始まり、荒谷正咲事務局から新役員22名の承認後、はるばる沖繩から駆けつけた阿部重人君(昨年厚生労働省那覇検疫所所長)の乾杯の音頭で還暦記念大会の宴が始まりました。

宴たけなわで司会・喜藤雅彦君に代わり、司会指名で壇上で近況報告(宮元信夫画伯ら)やら佐藤憲昭君の応援エールで「関南歌」を歌い、かたやテーブルでは何十年振りに会う人と、いずこの会と同様にテーブルを移動して話し込んでお互いの知己を確かめあっておりました。

小生の隣も名古屋から来られた残間忠夫君で、卒業以来で街角で会っても判らないでしょう。

酔いも回り類も赤らんで来た頃、橋本正敏君(古川市役所助役)が中締めをして、次回3年後に会うことで千葉弘副会長の閉会の辞となりました。

だが、話が終わらない人は続けて2次会の国分町「藤満」に30人余集まってまた飲み直しながら話し込みました。午後9時頃古川へ帰る電車時刻が迫り、散会しました。卒業以来42年振りに会った仲間もおり、「友遠方より来る。亦楽しからずや」の心境でした。在仙の役員の方ご苦勞様でした。

蛭雪一五会 還暦を祝う会



日曜大工園芸用品卸 貸ビル、貸マンション業

株式会社 佐々木商事 代表取締役
株式会社アクアベンドジャパン 代表取締役副社長

佐々木 光一路 (昭和33年卒)

〒144 東京都大田区南蒲田1-1-21 佐々木ビル-0035
第一京浜国道沿い京急蒲田駅前
電話 (3739) 2468
FAX (3732) 7700
HOT Line 090 3202 6393

積水工業株式会社

空調・衛生・電気工事

S28卒 取締役会長 金子 康

本社 目黒 (03)3793-5711 仙台支店 (022)235-7009

会員通信

●幹事様、ご苦労さま！老齢になりましたので、今のうちに（四校新年会）皆さまにお目にかかるといい気持ちです。まにまにかかるといい気持ちです。まにまにかかるといい気持ちです。まにまにかかるといい気持ちです。

●元気が、仲間も減ってしまいい、陰ながら応援しております。 (S14佐藤裕郎)

●まもなく83歳になりますが、月2回ゴルフとスポーツクラブに通っております。 (S14佐藤裕郎)

●懐旧、閑適な日々を過ごしております。 (S15小山 豊)

●元気でいます。体操会の世話などをして走り回っております。 (S20若立脚)

●頭と足の運動に励み健康を維持しております。皆様の御健勝をお祈りします。 (S20佐々木 浩)

●肝臓に癌がみつかり、4月から治療を始めています。でも極めて初期なので動かしやすいです。最近の時代、閉塞状況は破られなければなりません。それをどうするか、最近ずっと考えています。 (S20佐々木 浩)

●昨年アキレス腱を切断、入院、手術、1か年入院、その後2ヶ月車椅子生活、今はリハビリに専念、筋肉の回復を図っております。 (S22倉澤健治郎)

●また偶然、前日に東京での対談が予定されてしまったので（四校新年会）出席します。去年は昭和22年卒1名でしたので今度はと期待しております。 (S22長崎市愛野記念病院 松本慶蔵)

●老骨ですが、まだ動いております。 (S23半田義大)

●残念ながら先約の別新年会と重なり（四校新年会）欠席します。正月以来少し体重増ですが、元気に散歩三昧。今月は屋内地震対策の各処置に専念中。 (S24斎藤 馨)

●近くのタイプネスクラブで週3回体を鍛え、また、老化防止のため、囲碁やパソコン、デジカメに取組んでおります。 (S24小林 昭)

●99年に大学を定年退職。以後、旅と著述にいそいで居ります。 (S25袖井林二朗)

●昨年は会社顧問を止めて自由の身となり楽する者だったので、水墨画（会長職）と刻字、パソコン教室、船橋市民大学、グランドゴルフ会と毎週忙しく、今年はいかに相成るやら。 (S26鈴木桂吾)

●近隣のスポーツクラブに通い、至って元気です。90歳までOKの見通しです。 (S26生龜 弘)

●昨年は（四校新年会）に参加させていただきます。在京東大崎友の会、在京古高三期会、神奈川警視会等との交流を深めています。 (S26佐々木 達夫)

●家庭菜園を楽しんでいます。 (S27遠藤安郎)

●去年から会社の非常勤監査役（週2日出社し、他の日はボランティア）で企業家のお手伝いをしています。 (S27NSK株菅原肇雄)

●週末には新宿で、うたごえを楽しんでいます。 (S27斎藤林寿郎)

●実家のある小野田の会社に非常勤でいます。自宅の横浜で趣味の鎌倉彫を刻っています。20年以上続けています。 (S28早坂明久)

●まだ元気で。今や青春は思い出の中だけです。 (S28山田四郎)

●昨年、29年卒古高福の会佐藤廣さん幹事で在京20名出席し、楽しい時間を過ごしました。 (S29岩淵瑞穂)

●会報「蜜雪」を熟読、郷土の情報源となっていて毎日爽快です。 (S29近江誠一)

●停年で院長職をゆずりましたが、毎日水戸から日立まで通勤：毎日診療を行っています。車も年2万km以上走っています。 (S29日敏記念病院 金原章郎)

●ボランティアでNPO法人日本パラオ協会の事務局をやっています。今年には戦後60年で玉砕地の戦跡整理保存活動に打ち込むことになりました。 (S29佐藤 廣)

●年1回（四校新年会）楽しみにしています。 (S29徳富川製菓所 佐藤節郎)

●マンシヨン管理士の資格を取り、当マンション大規模修繕に対応しています。アルバイトは週2日位、一応3月までです。 (S29関口克己)

●山登り、ゴルフ、卓球、街歩き、旅行etc. やっているのですが、このところ進歩がなく、この程度で限度かなと思っています。 (S29三浦憲一)

●つつがなく過ごしております。旅行とゴルフが楽しみの生活となりました。 (S30今川欣也)

●NHKラジオセンターのラジオ深夜便のニュースデスクを続けています。04年に日本棋院の二段を取得した趣味の囲碁は05年、三段を目指します。 (S30木村哲也)

●昨年10月には卒業50周年記念「鳴子ホテル」で、西巻さんを中心に旧交を温め合い母校の歴史を想いました。 (S30岸 孝仙)

●会報、楽しく拝読いたして居ります。お世話の程、深謝申し上げます。 (S30児玉律夫)

●例年、柔道部OB会、30年卒同期会に出席させていただきます。 (S30佐々木 豊)

●体調不良（暮に心筋梗塞入院手術）のため（四校新年会）欠席します。次回出席出来るよう健康管理に努めます。 (S30佐々木清七)

●相変わらずクラシックコンサート、オペラ鑑賞に通っています。心臓病（バイパスを行う）も最近はや、調子が良いです。 (S30師山政夫)

●04年3月でリタイヤし、のんびり生活しております。 (S30三浦哲夫)

●定年（63歳）後5年目になります。旅とゴルフと登山を楽しんでおります。 (S31阿部 進)

●元気に暮しております。もう直ぐ男女共学となるそうですね。なんだか淋しい感じがします。でも、これを機会にレレベルアップすることを期待致しております。 (S31相澤昭男)

●日々日曜日で、ゴルフ、飲み会、ハイキングで過ごしております。 (S31浅野平男)

●住所録等の刊行物が、他の目的に利用されない様御注意願います。 (S31浅野森男)

●会費（懇親会費）が高い。5、6千円なら出席費も増えるはず。諸経費を切りつめて内容のupを。 (S31生龜 功)

●会報ありがとうございます。当方、老人会が地域の方々と楽しく過ごしております。事務局の皆様、本当に「ご苦労様」です。他団体を主宰しておりますので大変さが判ります。今は環境問題や行政問題、そして介護について講演しています。 (S32紺野宗司)

●庭園管理士、行政書士等をやっております。御用命を承ります。 (S32高梨利通)

●会社は退職したものの、ボランティアとしてパドミントン、小・中・高校生と一緒にバドミントンを教えているので、ほとんど暇はありません。 (S33浅野勇男)

●昨年4月に退職（65歳で停年）し、のんびり自適に「悠々」とはいきませんが、暮らしてまいります。 (S33大山隆志)

●毎月1回の写真教室を2ヶ所、プロの助手をやっております。報酬は微々たるものですが。 (S33野村高義)

●近況：サンデー毎日、希望：在京高時代の先生活方の近況は。 (S33山本道也)

●昨年の8月から1年間、中国へ単身赴任で行っております。7月には戻る予定です。 (S36中国廣東省東莞市 美成電子廠 大曾根秀憲)

●現役を退いて半年、のんびり過しております。テニス、囲碁、孫の相手を担当に。初めて（四校新年会）参加しますので、よろしく願います。 (S36NECシステムテクノロジ顧問 古戸俊一)

●前にもお願いしましたが、同期の連中に話をして（四校新年会）出席をお願いしていますが、出欠の連絡は12月の中旬にならないのでしょうか。 (S36菅野俊次)

●昨年12月に3日間で身内の悔やみ3件あり、49日、100ヶ日の法要の先約あり。 (H四校新年会)欠席させていただきます。 (S36古川 徹)

●Pにアクセスし、「古川」の情報を日々入手しております。 (S36菅野 徹)

●館etc. 今年の都議会議員選挙に杉並区から立候補します。前回（3年半前）は次点18050票でした。御支援下さい。 (S36千葉 昇)

●はじめて（四校新年会）参加致します。よろしくお願ひ申し上げます。ジャズダンス上場会社の会社代表を忙しく務めており。 (S36俵シチズン電子 枅澤 敬)

●昨年12月末をもって、石川島検査計測機を退職。今年1月から派遣社員として、親会社の石川島播磨重工業に勤務しております。 (S36水上武彦)

●定年退職し、何かをやらねばと思案中です。 (S37相澤利重)

●神奈川県県選野球に加盟し、野球に明け暮れております。同期生も田舎（古川）でやっております。高校の野球部時代を思い出しております。 (S37六戸照男)

●今年あたり、名簿発行はいかがですか？期待しております。 (S37栃木県農業振興公社 高橋 馨)

●04年4月から現職です。会の御繁栄を祈ります。 (S38那覇検疫所所長 阿部重人)

●毎度、会報や案内をいただきありがとうございます。今回事業（四校新年会）に出席できませんが、何とか出席を：：という気持ちがあります。今後ともよろしくお願ひします。 (S39笹原誠一)

●総合研究開発から大和に4年ぶりに復帰。米田出張のため（四校新年会）に参加できません。 (S41大和総研 鈴木宏二)

●土曜日もロースクールの仕事がありますので、残念ながら（四校新年会）出席できません。皆様のご健勝を祈念いたしております。 (S41明大法科大学院 藤吉和史)

●地震で被害の大きかった南郷にも春が近づいている様です。新潟/中越の皆さんにも春が：：祈るのみです。 (S42システムコンサルタンツ 安部清一)

●平成16年6月末に31年間勤めた住友信託銀行を退職し、経営コンサルティング会社を始めました。 (S42衛エビス総合研究所 佐々木文安)

●市町村合併で桂村から城島町になりました。三町村がひとつになっても、面積だけ広くなったも、非効率なシステムがそのままだ、意味がないような：： (S46下妻養護学校 高橋昭己)

●05年会社を退社し、法人を立ち上げ独立する予定です。 (S51アコジャパン 野田雅彦)

●石巻工業高に5年間勤務後、現在の高校に来て17年になります。来年100周年を迎える古い高校ですが、共学5年目を迎える、ある意味新しい学校です。共学にしてのメリットに喜び、デメリットに悩んでいます。母校のお力になればと想っています。 (S52東洋高校 高橋忠徳)

●古川高校の共学化、非常に残念なことです。 (S52角田病院 高橋史俊)

●札幌勤務の為、（四校新年会）出席できません。戻りましたら出席したいと思っております。会の繁栄を祈念申し上げます。 (S52NHK札幌 平野幸三)

●東京の単身赴任を終え、現在、シシガボイル在勤になりました。在京古高同窓会に一度も出席できず、申し訳ございませんでした。 (S53三菱電機 千葉洋一郎)

“アウトソーシングを支援する”

パルスタッフ株式会社
 厚生労働大臣認可・人材派遣業（般13-300435）
 代表取締役社長 **渡 邊 道 雄**
 S28年卒（鹿島台町）
 本社 〒166-0002 東京都杉並区高円寺北2-4-5
 TEL 03-5364-5251 FAX 03-3330-7585
 立川営業所 (042-528-8585) 神奈川営業所 (0462-77-0791)
 E-mail: m.watanabe@palsbk.co.jp

特定非営利活動法人
日本刀剣保存会
 みやまのていじ
 理事長 **宮 野 貞 司**
 S34年卒
 〒142-0053
 東京都品川区中延3-13-17
 TEL・FAX 03-3782-5326

来春の四校合同新年会
一月十四日(土)に開催

その感動を再び
新春コンサートNo.2

来春の古川市内四校合同新年会は、1月14日(土)開催となりますが、総会の後半には、5年前に行われ好評だった「新春コンサート」の第2弾を開催する予定です。

その5年前を振り返ってみますと、古川市内高校出身者で現在、東京を中心に活躍している音楽家にお集まりいただき、演奏していただきます。

そのときの演奏者は、昭和63年古川女子高卒で、放送やレコーディング、ソリスト・合唱団の伴奏者として活躍しているピアニスト・野間晴美さん(古川市出身)。昭和62年古高卒で東京交響楽団の首席フルート奏者・相澤政宏さん(浦谷出身)。同じく昭和62年古高卒で、オペラや宗教曲のソリストとして、最近すばらしい活躍をしている二期会のバリトン歌手・成田博之さん(高倉出身)の皆さんでした。

来春は、以上の方々を含め、他の方々にも出演を交渉中です。クラシック音楽をあのとき初めて聴かれたという会員の方達からも、「感動した。是非もう一度」という声が多く、再び企画することになりました。(曾根)

お知らせ

平成17年度
在京古高同窓会定時総会・懇親会

【日時】
平成17年6月25日(土)
11:00~15:00

【会場】
神楽坂「エミール」

【会費】
8,000円

【講演講師】
鈴鴨 清美氏(昭和28年卒)

【演題】
「教育における不易と流行」
—新生古川高校の発展を期して—

【交通案内】
地下鉄東西線 神楽坂駅 徒歩2分
(神楽坂方面出口)



楽坂財団法人 東京都福利厚生事業団
エミール 〒162 東京都新宿区赤城元町1-3
0817 TEL 03-3260-3251

平成17年度
定時総会講演講師

鈴鴨 清美氏
プロフィール
(昭和28年卒 中新田町出身)



| | |
|---------|----------------------------|
| 昭和28年3月 | 古川高校卒業 |
| 昭和32年3月 | 東北大学教育学部卒業 |
| 昭和32年4月 | 仙台市立生小中学校 教諭 |
| 昭和36年4月 | 仙台市立愛宕中学校 教諭 |
| 昭和40年4月 | 宮城県第三女子高等学校 教諭 |
| 昭和48年4月 | 宮城県泉高等学校 教諭 |
| 昭和52年4月 | 宮城県教育庁指導課 指導主事 |
| 昭和57年4月 | 宮城県教育庁学務課 管理主事 |
| 昭和59年4月 | 宮城県教育庁学務課 主任管理主事 |
| 昭和61年4月 | 宮城県角田女子高等学校 校長 |
| 昭和63年4月 | 宮城県教育庁学務課長 |
| 平成元年4月 | 宮城県教育次長 |
| 平成3年4月 | 宮城県仙台第一高等学校 校長 |
| 平成5年6月 | 宮城県教育委員会 教育長 |
| 平成9年4月 | 宮城学院女子大学 教授 (平成14年3月退職) |
| 平成16年4月 | 宮城教育大学 副学長 |

心よりご冥福をお祈りいたします

相原 芳仁氏 (昭26年卒) 平16年9月6日
鈴木 久昭氏 (昭30年卒) 平16年8月4日
鈴木 徹氏 (昭30年卒) 平16年12月22日

（昭30年卒）元セ・リーグ審判員

一期生として入学しました。合格発表直後に出された宿題、入学前の試験、毎日の予習・復習でアップアップだそうです。今から思えば、私の時代(昭和50年代前半)は、生徒の自主性を最大限尊重してくれた時代で、いい意味で非常にのんびりしていた時代といえますが、一方で学校による指導が不足していた時代でしたし、勉強しない自由もありました。

今の古高の話を知ると、同じ学校の話とは思えません。しかし、地域の同窓生や父兄はこういった「鍛えてくれる古高」を長い間期待していました。最近ようやく期待に応えられる態勢になったようです。

先号まで角田さんの「私の卓球人生」が5回連続で掲載されました。足掛け3年に及ぶ大作でしたが、当時の様子がよく伝わってくる臨場感に溢れる名文でした。角田さんありがとうございました。

先日、私の姪が古高に女子の第

学校の評判というのは常にタイムラグがあります。いままで「何もしてこない古高」だと思っただけで、自分の息子を古高に入学させない父兄もいたはず。現在の古高がこういつた態勢になったことを、まだまだ知らない同窓生は地元を含めて多数いると思います。もう古高は同窓生や父兄の信頼に足る学校であることをPRしていく必要があるでしょう。

(亀井)

士 青沼 康男
不動産鑑定士 (昭和19年卒)

〒108 東京都港区芝4-6-16 ライオンズ三田805-0014
TEL 03-3452-2004
FAX 03-5476-8006

旧古中・古高 中興の祖(在京旧古中・古高同窓会)

森谷 建設株式会社

代表取締役 森谷 侑一 (昭和20年卒)

〒336-0923 埼玉県さいたま市緑区大字大間木2395
TEL 048-874-2610

CALS/EC(公共事業支援統合情報システム)

電子納品作成支援
おまかせください!

導入から成果品まで専任スタッフがきめ細かく対応しバックアップいたします。

専任スタッフ・有資格

| | |
|-----------------|----|
| CALS/ECインストラクター | 4名 |
| 電子化ファイリング | 5名 |
| ファイリングデザイナー | 2名 |
| 文書情報管理士 | 5名 |

代表取締役会長 早坂 清吉 (昭和29年卒)

佐藤 啓三 (S40年卒 中新田)

中小企業診断士・ISO審査員・エネルギー管理士

ISO(品質・環境)・技術・経営
コンサルティング・グループ
株式会社 経営技術機構 所属

〒105 東京都港区虎ノ門5-3-20 仙石山アネックスビル1階
-0001
TEL 03-5425-2491 FAX 03-5425-2492
自宅 〒241-0004 横浜市旭区中白根2-22-19
携帯 090-1438-9132 E-mail FZN04730@nifty.ne.jp

株式会社 ケーヨー

http://www.keyo.co.jp E-mail: info@keyo.co.jp

本社 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-1-6 ☎03-3242-0191 FAX 03-3242-0167
横浜支店 〒221-0028 横浜市中区磯崎2-7-10 ☎045-664-2911 FAX 045-664-2908